活動目標3	地域福祉を支える人づくり	計画書　P64　～　P65
活動方針1	地域福祉の理解の促進	

評価①

市	事業・取組	福祉に関する啓発、教育の推進 （地域包括ケア推進課）	保育園児と高齢者福祉施設等の高齢者の交流事業や、障がい者への理解を深めるための講演会等を実施する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 認知症の方や障がいがある方への正しい知識や理解を持ち、本人やその家族の方達を支援する認知症サポーターなどの養成や、市職員による出前講座により、福祉に関する啓発を図った。	
	課　　題	・普及・啓発について、一部の世代（自治会等の団体）に限定されてしまうため、若年層へのアプローチが必要である。	
	今後の取組方針	・今後も認知症サポーターを始めとする、各地域での支援者を拡大させていくとともに、職域や世代にとらわれることなく、出前講座等を積極的に実施する。	

市	事業・取組	市職員出前講座の活用 （生涯学習課）	市職員が講師として地区等に出向き、市の事業や制度などに関する講座を開催する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる ・広報とちぎへの折込（班内回覧）やホームページを用いて、令和4年度出前講座メニューの「健康・福祉」分野として20講座を広報周知した。 ・自治会の研修会や民児協の定例会などでの利用に加え、福祉施設や企業の社員研修にも活用され、幅広い対象に福祉事業やその制度の説明ができた。	
	課　　題	開催は順調であるが、講座のマンネリ化・希望メニューの偏りが懸念される。	
	今後の取組方針	既存の講座テーマや内容の見直しを行い、新たな講座展開につなげる。また、開催希望者とメニューの調整を行うことも検討していく。	

社協	事業・取組	小中学校等での福祉教育の学習や体験活動の受入・地域での出前講座	市内小中学校等の福祉教育の学習において、職員や各種ボランティアグループ等の講師派遣や、施設等での児童・生徒の体験活動の受入れを行う。また、地域での出前講座を開催する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 市内小・中学校等からの手話や点字、高齢者疑似体験等、福祉やボランティア活動に関する授業実施の相談に応じ、職員やボランティアグループ等の講師派遣、児童や生徒の体験活動の受け入れを行った。 令和4年度実績　小中学校等への派遣　36件　　学校以外への派遣　4件 派遣内容　車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験、点字体験、手話体験、シナプソロジー、防災・防犯　等	
	課　　題	福祉教育プログラムについても、体験型プログラムから地域共生社会に求められている多様性を取り入れいていく必要がある。	
	今後の取組方針	高齢者や障がい者の疑似体験中心の福祉教育から、そのひとのもつ「強み」と「課題」に着目、様々な人の「ちがい」と「おなじ」に着目、生活のしづらさは「環境」の差による。新しい障がい観、福祉観の視点を取り入れた学習や地域の一員としての意識を育てる学習など、多様性である地域共生社会の視点を中心とした、福祉教育を展開していく。	

社協	事業・取組	ふれあい交流事業	障がいのある方もない方も一緒に交流することで、地域に住む人々が互いの理解を深め、支え合いの気持ちを育む。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 地域共生社会の実現に向け、障がいのある方もない方も一緒に交流することで、地域に住む人々が互いの理解を深め、支え合いの気持ちを育むことを目的に11月に開催した。 令和4年度実績　参加者68人（一般40人　ボランティア21人　職員7人）　内容　街並みウォーキング	
	課　　題	令和2年度から、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、屋外で実施できる街並みウォーキングを実施した。新しい生活様式に則した、事業内容にする必要がある。屋外での実施となると参加者の安全確保のためのスタッフの(ボランティア）確保が課題である。	
	今後の取組方針	地域福祉サポーター養成講座修了者や高校生等の若い世代を取り込みながら飽きの来ない充実した内容を検討し、スタッフの確保に努める。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	福祉に関する出前講座開催数（回）	目標値	29	31	34	37	40	4
		実績値	35	33	42			
	地域包括ケアシステム講座の開催（回）	目標値	15	15	15	20	20	2
		実績値	6	2	5			
社協	小中学校等への職員等派遣回数（回）	目標値	44	50	55	60	70	3
		実績値	41	29	36			
	ふれあい交流事業の参加人数（人）	目標値	100	100	100	100	100	4
		実績値	113	113	68			

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 出前講座を福祉施設や企業の社員研修にも活用され、幅広い対象に地域福祉事業や、その制度の説明ができたことは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 ・若年層へのアプローチが課題であるため、認知症サポーター養成講座や出前講座を通じて積極的に若者層への理解促進に努める。
社協	【取組における成果】 小中学校等での福祉教育をとおして、地域共生社会を目指し、多様性の社会に通じる福祉の心を育むことができている。また県内初の試みとして「赤い羽根共同募金」の仕組みについて市内の寄附者（ピジョン真中・ハマ商店）と募金の助成団体（点字ボランティアすみれ）に参加していただき、地域の中での「寄附」という思いやりの循環について学ぶ機会を設けた。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 小・中学校等における福祉教育は、従来高齢者や障がい者の生活の疑似体験が中心であったが、地域共生社会の理念に基づいた、多様性を認め合い、地域生活課題を自分たちの地域の問題として認識し、その解決に向けて知恵を出す、住民の主体性を育む福祉教育を民間企業と連携し、展開していく。令和3年より実施している「先生方と一緒に考える福祉教育のあり方講座」として、体験型福祉教育の脱却、地域共生社会を意識したこれからの福祉教育を先進事例をもとに、教職員向けに研修会を行う。

評価④

推進懇談会評価
・「地域福祉」「地域包括ケア」「地域共生」と似たような言葉が多い。分かりやすさも重要なことであるので、表現を明確にするようにしていただきたい。 ・福祉の枠を越えて取り組むべき指標である。教育部門やまちづくり部門と一体化した取り組みを進めていただきたい。 ・学校において、認知症サポーター養成講座等の社会問題を学ぶ機会を充実させていただきたい。
活動方針の実現に向けた現状の評価　4　・　(3)　・　2　・　1

活動目標3	地域福祉を支える人づくり	計画書　P66　～　P68
活動方針2	地域活動の活性化	

評価①

市	事業・取組	はつらつセンター事業 （地域包括ケア推進課）	高齢者の社会参加促進のため、自治会などの団体に委託し、地域住民の参加と協力のもと、地域にある施設（自治会公民館等）においてレクリエーションや交流サロンなどを開催する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 高齢者が介護状態になることを予防するために、地域住民の参加と協力のもと、家に閉じこもりがちな高齢者に集まりの場を提供し、生きがいづくりや健康で元気に生活するための様々な事業を団体（自治会等）に委託して実施した。	
	課　題	構成員の高齢化が進み、事業の実施や委託関連の事務手続きを行うことが困難になっているケースがみられるとともに、新規の会員獲得が課題となっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で施設の利用制限や活動内容により実施困難になっていた事業もあることから、コロナと共存しながら持続していけるような事業の検討が必要である。	
	今後の取組方針	高齢者人口が増加する中、身近な場所で介護予防事業が提供できる本事業は、介護予防意識の普及啓発にも有効であることから、今後も未実施の自治会等に働きかけを行うとともに、事業の実施や委託関連の事務手続きを行うことが困難になっている団体に対しての支援や事務の簡略化等を検討していく。	

市	事業・取組	いきいきサロン事業 （地域包括ケア推進課）	身近な場所でお茶や会話を楽しめる居場所を提供し、閉じこもりがちな高齢者の社会参加を促すことでフレイルになることを防止し、健康寿命の延伸を図る。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 高齢者が気軽に集い、お茶やおしゃべりを楽しめる居場所を提供し、自宅にこもりがちな高齢者の社会参加を促すことで介護状態になることを予防し、健康寿命が延伸することを目的として開設したサロンに対して、運営費等の一部を補助した。	
	課　題	令和元年度から、新規開設者の減少に加え、新型コロナウイルス感染症により、継続を見送るサロンが増加している。	
	今後の取組方針	居場所づくりの拡大と継続的なサロンの運営を図るため、各地域の生活支援コーディネーターによる申請等に対する支援や、後継者の確保に向けた働きかけを実施し、活動するサロンの増加を図っていく。	

市	事業・取組	市民活動推進事業 ”とちぎ夢ファーレ” （地域政策課）	市民や企業からの寄付金と市費を原資として、市民団体が行う公益歴な事業（市民活動）に対し助成を行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 市民活動団体の財政支援を実施してまちづくりを推進するため、市民・企業等からの寄附金からなる基金と市の一般財源を活用し、市民活動団体17団体の実施事業に対して補助金を交付した。	
	課　題	市民活動の活性化と裾野の拡大を図るため、幅広く制度の周知を行う必要がある。また、事業の採択時においては、公益性や持続可能性に重点を置き審査をする必要がある。	
	今後の取組方針	市民活動センターくららと連携しながら、各地域においても周知活動を行う。また、事業の審査については、引き続き、有識者等で構成される栃木市市民活動推進事業審査委員会において決定していく。	

社協	事業・取組	地区社会福祉協議会への支援	地区の状況に応じた福祉活動を推進している地区社会福祉協議会に対し、活動費の助成や事業実施に係る相談等の支援を行う。また、各地区社会福祉協議会間の情報共有を目的に地区社会福祉協議会連絡会を開催する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 地区の状況に応じた福祉活動を推進している地区社会福祉協議会に対し、運営費及び事業費の助成（17地区）や事業実施に係る相談等の支援を行った。また、各地区社会福祉協議会間の情報共有を目的に地区社会福祉協議会連絡会を9月に開催した。	
	課　　題	各地区社会福祉協議会で新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止にしていた事業を再開することに苦慮している。	
	今後の取組方針	地区社会福祉協議会に対し、新しい生活様式に則した事業展開および事業再開への支援を継続していく。	

社協	事業・取組	福祉団体やボランティア団体の活動への補助や事業への協力	地区における福祉活動の推進を図るため、市内の福祉団体やボランティア団体等の活動に対する補助、支援等に行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 地域における福祉活動の推進を図るため、市内の福祉団体やボランティア団体等の福祉に寄与する活動に対する補助を行った。令和４年度補助実績　４５団体	
	課　　題	福祉団体やボランティア団体の支援のあり方について、見直しが必要である。 （補助金の使途や周知方法等について）	
	今後の取組方針	福祉団体やボランティア団体の支援のあり方については、社会福祉協議会の経営安定化計画にも位置付けられている。補助金の周知方法について、通知のみであったが、補助金の申請、使途等の説明をオンラインで実施するよう検討する。（令和4年度小中学校等の福祉教育推進事業補助金について、研修会に併せてオンライン説明会を実施した）	

社協	事業・取組	各当事者団体交流事業の開催支援	シニアスポーツ大会や障がい者団体が開催する事業に対し、職員の派遣や支援等を行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる シニアスポーツ大会や障がい者団体が開催する事業に対し、例年職員の派遣や支援等を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため事業が中止になるなど、令和４年度職員派遣はなかった。	
	課　　題	団体の役員が高齢化、新規加入者の減少等により、活動が難しくなってきている。	
	今後の取組方針	職員の派遣等の支援を行うことにより、事業が継続し、団体の活性化を図ることで生きがいづくりや引きこもり防止にもつながる。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	はつらつセンター実施団体数（団体）	目標値	156	159	162	165	168	3
		実績値	154	149	151			
	いきいきサロン実施箇所数（箇所）	目標値	156	161	166	171	176	3
		実績値	151	152	150			
社協	地区社会福祉協議会連絡会参加人数（人）	目標値	17	17	17	17	17	4
		実績値	15	0	15			
	福祉団体やボランティア団体への補助団体数（団体）	目標値	67	60	60	60	60	3
		実績値	53	41	45			
	各当事者団体への派遣職員数（人）	目標値	2	4	6	8	10	1
		実績値	4	0	2			

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 特に自宅にこもりがちな高齢者に集まりの場を提供し、フレイルを予防する働きを担ったことで、地域の活性化につながっていることは成果としてあげられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、サロンの開催を見送る団体の増加や新規開設者の減少が課題であるので、互助・共助の広がりを目指すため、適正な審査のもと、補助金の交付等を通じて、市民活動の活性化を促進したい。
社協	【取組における成果】 地区社会福祉協議会及び福祉団体・ボランティア団体の支援をとおして、事業や活動が継続的に実施できることで栃木市の福祉に寄与している。また、小中学校等での福祉教育へ講師を派遣し、福祉のまちづくりの一翼をになっている。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 地域共生社会の実現に向けて、地区社会福祉協議会及び福祉団体・ボランティア団体等と連携を密に行い、支え合いやつながりの活動を見える化することを進める。

評価④

推進懇談会評価
・感染症が5類に移行したので、今後の活動に期待する。
活動方針の実現に向けた現状の評価　(4)　・　3　・　2　・　1

活動目標3	地域福祉を支える人づくり	計画書　P69　～　P71
活動方針3	人材の育成	

評価①

市	事業・取組	民生委員・児童委員・主任児童委員研修会の充実（福祉総務課）	民生委員・児童委員・主任児童委員を対象に、相談援助活動を行う上での助けとなる知識を得られるよう、市民児協連合会及び栃木県主催の研修会を実施する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 栃木県主催で実施した県南ブロック地区別研修会に261名、市民児協連合会が主催で実施した全体研修会に288名が出席した。また、令和4年度は3年に1度の民生委員児童委員一斉改選の年度であったことから、新任委員184名を対象に、民生委員としての心構えをテーマに研修会を開催し、161名の委員が出席した。	
	課　題	感染症の影響により、集合形式の研修会が縮小・中止になることが多く、令和元年12月の一斉改選以降に委嘱された委員に対しての研修の場は十分とは言い難い状況である。	
	今後の取組方針	社会情勢に応じた研修会を企画・実施していくとともに、担い手不足の解消のため、民生委員候補者を養成する研修等を検討する。	

市	事業・取組	市民活動推進センターくらら（地域政策課）	管理運営を特定非営利活動法人ハイジに委託し、市民活動に関する相談や情報の収集・提供、及びボランティア団体の交流促進を行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 市民活動の推進に寄与するため、市民活動団体等からの相談受付や情報の発信、更には、くらら登録団体に対して会議室やロッカー等を貸し出すことにより、その活動を支援した。また、一般市民と団体との交流を深めるため各種イベントを実施した。	
	課　題	市民活動団体構成員の高齢化により、団体数が減少傾向にあるため、若い世代を確保するための創意工夫が必要となっている。	
	今後の取組方針	高校生を対象とした事業を積極的に行うとともに、SNSを活用した情報発信やオンライン講座の充実を図る。	

市	事業・取組	各種サポーターの養成	生活サポーター（あったかいご員）・ますます元気サポーター・認知症サポーターを養成するため、講座の開催や講師の派遣をする。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 介護予防事業等、地域において活動する認知症サポーター等のボランティアを養成するため、各種講座の開催や講師の派遣を行った。	
	課　題	養成した全てのボランティア等が一堂に会し、意見交換等を実施する全体会の開催や連携した活動の検討。	
	今後の取組方針	地域介護予防活動の担い手として、ボランティア等の活動が広がるよう、生活支援コーディネーターと協力し、支援を必要とする団体等とつなげていく。	

社協	事業・取組	地域福祉サポーター 養成講座の開催	年齢や障がいの有無に関わらず、すべての地域住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら、社会参加できる「地域共生社会」を目指している。「地域共生社会」実現のため、市社会福祉協議会と地域の橋渡し役や支え合いの地域づくりに必要な知識・視点等を身につけることを目的に地域福祉サポーターを養成する。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 年齢や障がいの有無に関わらず、すべての地域住民が自分らしく、それぞれに役割を持ちながら、社会参加できる「地域共生社会」を目指し、地域福祉の担い手の育成を目的に、地域福祉サポーター養成講座を開催した。 令和4年度実績　地域福祉サポーター養成講座受講者47人　内容 「支えあいや地域のお宝（活動）探し」について等　入門編、基礎編、実践編（3日間）　また、地域福祉サポーターが見つけてきた地域のお宝の発表会を開催した。「キラッと輝く　栃木市のお宝発表会」 参加者 約200人	
	課　　題	地域に対して地域福祉サポーターの認知度が地域によって低いため、サポーターの増員や地域に向けて開催場所の検討などの普及啓発を高める必要性がある。	
	今後の取組方針	中長期計画に基づき、地域活動の担い手である地域福祉サポーターを増やしていく。 養成した地域福祉サポーターのスキルアップを目的にフォローアップの研修の開催と組織化を図る。	

社協	事業・取組	ボランティアセンターの運営	より多くの市民が容易にボランティア活動へ参加できるようにするため各種講座を開催する。また、ボランティアの発掘や育成等の基盤づくり、ボランティアに関する相談を行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる より多くの市民が気軽にボランティア活動へ参加できるようにするため、ボランティアの発掘、育成等の基盤づくり、ボランティアに関する相談等を行った。また、例年各種ボランティア養成講座を実施している。 令和4年度実績　手話奉仕員養成講座　参加者16人　手話のミニ講座　参加者12人　、傾聴ボランティア養成講座参加者11人、配食ボランティア講習会参加者14人、運転ボランティア養成研修会18人	
	課　　題	ボランティア団体の会員の高齢化等により、会員数が減少している団体が多くみられる。	
	今後の取組方針	各種ボランティア講座にて、他講座への募集を行う、また広報誌等を活用しながらより幅広い広報活動を継続していき、ボランティアの担い手を育成していく。育成後は、ボランティア団体へつなき、団体の継続と活性化を図る。	

社協	事業・取組	大学生等の実習生の受入	将来、社会福祉の専門職として活躍する人材育成の一助とするため、実習生の受入れを行う。
	事業概要	「誰（何）を」「どういう方法で」「どうしたか」「対象」「手段」を記入する　※懇談会の意見があれば反映させる 将来、社会福祉の専門職として活躍する人材育成の一助とするため、実習生の受け入れを行った。 令和4年度実績　社会福祉士現場実習　1人　　その他　2人	
	課　　題	社会福祉士現場実習の実習指導者は、社会福祉士の資格を持ち、研修を受けた者でなければならない。人事異動等もあるため、社会福祉士実習指導者を増やす必要がある。	
	今後の取組方針	社会福祉協議会の使命として、次世代の福祉職の育成があることから、社会福祉士の資格を持ち、経験年数を満たした者について、実習指導者の受講計画を立て、大学生等の実習生を受入れられるよう、体制整備を行う。	

評価②

数値目標			R02	R03	R04	R05	R06	自己評価
市	市民活動推進センターくらら登録団体数（団体）	目標値	315	315	315	320	325	3
		実績値	309	272	263			
社協	地域福祉サポーター養成講座受講者数（人）	目標値	30	30	30	30	50	3
		実績値	47	66	47			
	ボランティアセンター登録人数（人）	目標値	203	205	207	209	210	2
		実績値	53	88	90			
	ボランティアセンター登録団体（団体）	目標値	210	212	214	216	220	3
		実績値	175	180	176			
	各種ボランティア養成講座受講者数（人）	目標値	110	150	250	350	400	2
		実績値	72	28	93			
	大学生等受入人数（人）	目標値	8	10	10	10	10	3
		実績値	3	2	3			

点数	評価基準
4	順調に進んでいる
3	概ね順調だが不十分な点が少しある
2	実施されている部分もあるが、不十分な点が多い
1	実施方法も含め改善が必要である

評価③

【取組における成果】【活動方針の実現に向けた課題・方針】	
市	【取組における成果】 コロナ禍の中で感染症対策を徹底し、民生委員・児童委員・主任児童委員に対し研修会を開催できたことや、市民活動センターくららで各種イベントを開催できたことは成果として挙げられる。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 市民活動団体構成員が高齢化していることが課題であるため、地域福祉の推進には、若者の力も必要不可欠であるのでSNSを用いた市民活動の情報発信を積極的に行う必要がある。
社協	【取組における成果】 地域福祉サポーター養成講座の受講生が、地域の普段の暮らしの中にあるお茶のみや散歩中のおしゃべりなど地域のお宝をパネル（見える化）にし、地域のお宝発表会を開催したことで、日常的に何気なく行っていることが、支え合いやつながりになっていることが参加者の気づきにつながった。 【活動方針の実現に向けた課題・方針】 計画的に地域福祉サポーターを増やしていき、組織化などの体制整備を図る。また、地域の課題探しでなく、地域の強み・できていることに目を向け、地域のお宝を増やしていき、発信していくことで、地域の支え合い・つながりづくりを推進していく。

評価④

推進懇談会評価
・地域福祉サポーターを増やすことが課題。若者層を取り込むなどして、さらなる推進をお願いしたい。
活動方針の実現に向けた現状の評価　(4)　・　3　・　2　・　1